

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600919	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア淵野辺グループホーム		
所在地	( 252-0202 ) 相模原市中央区淵野辺本町2-19-14		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果 市町村受理日	令和5年6月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

新型コロナウイルスの関係もあり地域行事の多くが中止になってしまいましたが、施設内で蕎麦打ちや餅つきなどの多くの行事を企画し楽しんで頂いております。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年12月9日	評価機関 評価決定日	令和5年3月31日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は地域と良好な関係を築き、開設10年目を迎えています。JR横浜線「淵野辺」駅北口から徒歩約20分の所にあり、建物は木造2階建て、内部は明るく全面バリアフリーの2ユニットのグループホームです。

<優れている点>

充実した研修で職員の質の確保・向上に向けた育成を行っています。年間研修計画に基づき研修を実施し、受講者は研修報告書を提出しています。研修に参加できなかった職員には研修資料を配付し、読後に参加者と同様研修報告書を提出するようにし、研修内容の把握を確実にできるようにしています。報告書は上長のコメント付きで法人役員まで回覧し研修を实のあるものにしていきます。コロナ禍で書面開催となった運営推進会議の議事録は、管理者が各委員を訪問して手渡し、意見等を聴く機会を設けています。また、食事に変化をもたらすため、配食業者の献立を1ヶ月交代で利用し、提供しています。ホットケーキ作りや蕎麦打ちを始めとした各種食事レクリエーションに注力しています。利用者それぞれの嗜好に配慮し、通常の献立を変更して刺身丼や行事食を提供するなど、食事を楽しめるようにしています。

<工夫点>

利用者個々の出身地、思い出、馴染みの場所等を聴き出し、出身都道府県の地図や名所、特産品等を盛り込んだ掲示物を作り居室付近の廊下に掲示し、コミュニケーション作りのツールとして活用し利用者に喜ばれています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	アクア淵野辺グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	管理責任者、スタッフ共に、毎日の申し送り(朝礼)時に唱和を行い、意識づけをしている。	事業所開設時に職員と共に作成した理念を事業所内に掲示し共有していません。毎日の朝礼で唱和、確認し、実践に繋がっています。職員は毎日、利用者一人ひとりに笑顔をもって挨拶し、当日の支援に入っています。新入職員には、入職時に理念を説明し理解を得ています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在、コロナ禍の状況下のため、地域との直接交流は差し控えている。自治会の活動等、近隣の情報は回覧板の活用により情報を得ている。	コロナ禍の現状から地域交流は自粛していますが、通常は自治会の夏祭りや防災訓練への参加、マジックショーや歌などのボランティアの来訪、また、中学生の職場体験などがあり交流しています。事業所の夜間想定避難訓練には自治会長や地元消防団などの協力を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	過去には地域密着型の施設として色々な行事に参加をしていたが、現在は地域行事が中止になっているため参加する機会が無くなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は書面で行っている。施設の様子については書類をお渡しする際に口頭でも説明を加えている。	コロナ禍で運営推進会議は書面開催としています。2ヶ月に1回定期的に開催し、事業所の運営状況を報告をしています。議事録は施設長がメンバーを直接訪問し手渡しし、その折に意見や要望を聴取するようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	福祉基盤課や生活支援課と連携を図り進める様に心掛けている。	相模原市の福祉基盤課や介護保険課、生活支援課、大野北第一高齢者支援センター等と連携を図り、相談や助言を得ています。介護保険認定更新手続代行や成年後見人手続きなども行っています。ケースワーカーとも連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	・施設研修の取り組み。センサーマットを活用している入居者もいるが、日々他の対策等の検討を行っている。 ・身体拘束防止委員会を定期的に開催している。	身体拘束防止委員会を2ヶ月に1回定期的に開催し、結果を職員に周知すると共に、年2回研修を実施し、意識の向上を図っています。研修時に自己点検を実施、振り返りを行い、理解を深め身体拘束をしない支援を実践しています。玄関やフロアの施錠はせず、利用者を見守り、支援しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修にて事例等を学び、自分たちの自己覚知を行っている。	身体拘束防止委員会と併せ虐待防止委員会を行い、虐待の有無を検証しています。また、研修を実施すると共に自己チェックを行い虐待防止に努めています。職員に不適切ケアの場面があった時は、施設長やフロアリーダーがその場で注意を促すようにしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設長を中心として、家族や後見人とのやり取り等意思疎通の難しい入居者のアドボカシーを日々行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	一般的な言葉で説明を行い、途中で何度か質問を受けられるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナの影響もあり施設面会もできない期間があったため、あまり出来ない。	コロナ禍で家族の面会は中止しており、電話で連絡を取り、コミュニケーションを図っています。以前は、家族の面会時や家族会、運営推進会議等で意見や要望を聞く機会を設け対応し、運営に反映させています。毎月「広報ふちのべ」を送付し、利用者の様子を伝えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度の会議等で入居されている方の様子の情報を共有し統一の認識を持ってサービスの提供を行っている。	施設長は、日頃から職員とコミュニケーションを取り、職員の意見や提案を受け入れ対応しています。毎月フロア会議で意見や提案を聞く機会を設けています。職員の提案で、利用者の出身県や名所、特産品等が入った掲示物を作成し、思い出の場所として廊下に掲示しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法定内の賃金は与えられている。	人事考課を年2回、併せて個人面談を実施し、職員と話し合っています。職員の資格取得に向けた支援もあります。勤務シフトは月2回の希望休を入れ作成しています。職員休憩室、ロッカー、職員用トイレの設置、休憩時間も確保するなど就業環境を整備しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に一度の研修の他施設から数名は本社研修に参加をしている。	事業所内研修年間計画に基づき、毎月職員研修を行い、受講者は研修報告書を提出しています。未受講者には研修資料を配布し、読後の報告書を提出するようにしています。新入職員は法人研修後、事業所内で1週間程ベテラン職員が付きOJTを実施し育成しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在はコロナの関係もあり、行う機会が無い状態である。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	介護支援専門員を中心として、ご本人様やご家族の意思を尊重しながら課題の発見に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前のインテークから、介護支援専門員や施設長などを中心に信頼関係を築けるように努めている。入居決定後は介護スタッフも含めて多くの業種でアセスメントを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護支援専門員を中心として、ご本人様やご家族の意思を尊重しながら課題の発見に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の要介護の平均が高くなってきてはいるが、介護される・介護するだけにならないよう、自立支援や他者と協力した作業が行えるように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で面会の回数が減ってきているが、電話や少ない面会時間などにおいて、ご家族だから見つけられる入居者のニーズの発見など協力して支援を行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家具の持ち込みや記念の写真・アルバムなど本人のライフストーリーに存在した物が日々の生活のなかに常に存在しています。	コロナ禍で馴染みの人の面会や場所への訪問は中止しています。コロナ禍前は馴染みの人達の訪問があり、居室で面会しています。職員は利用者の出身地等を聴き出し、その場所の地図や行事、名物を入れた掲示物を作り、馴染みの場所づくりをし、喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーション活動などを通して、利用者間での共通の話題か活動が出来良に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	医療的ケアが必要となり転居した方のご家族や「遺族」となってしまったご家族。様々な状況下で退去という形になる事があるが、連絡があれば対応が出来るような体制を施設長を中心として作っています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思疎通が難しい方もいるがアドボカシー活動・利用者本位の支援が出来る様に日々努めている。	常時テレビの視聴を希望する人が西部劇のDVDを視聴して満足感を得ていることを察知するなど、アセスメントや日々の会話などから利用者の意向を把握しています。意向の把握が困難な人は、表情や動作などから判断して思いを汲み取り、会議で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のフェイスシートや保管している過去の記録などの見直し、ケアに繋がるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人ひとり生活の流れがあり、各自自由に日々を過ごすことができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロアの職員のみならず、介護支援専門員や施設長も定期的にあセスメン会議に参加して情報の交換、ご家族からの希望などを把握して支援に努めている。	長期目標1年、短期目標6ヶ月の介護計画を作成しています。個人記録に介護計画を明示し実施項目を記して現状を捉えモニタリングに繋げています。家族の意向も把握し医師などの関係者とも話し合い作成しています。状態の変化がみられた際は随時見直します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録を作成し日々の生活や課題点が簡単にみれるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	他事業所の訪問リハビリの導入など、ご本人やご家族の希望があれば対応できる体制の確保に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在は参加が難しいが、自治会や社会福祉協議会などでのイベントに参加したり情報の交換をする体制の確保に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	嘱託医の内科的診療を中心としてはいるが、必要時または希望のある際はご家族と連携して、精神科や外科的診療が受けれる体制を整えています。	内科・精神科専門の協力医療機関を月2回利用者全員が受診しています。歯科医は週1回訪問し治療や口腔ケアをしています。眼科などの専門医への通院は家族が対応し支援経過記録で情報共有しています。訪問看護師が週1回来訪し健康観察をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師が週に1度来設し、その際に情報提供を行い、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とも連絡を取り合い対応がスムーズに行えるように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や看取りケアに向けた方針については定期的に必要状況に応じてご家族等と話し合いの場を設置している。	入居時に「重度化した場合及び看取りの対応に関する指針」で事業所の方針を家族等に説明し同意を得ています。医師が終末期と判断した際は医師が家族等に説明し確認しています。三者間で方針を共有し支援しています。看取り後は振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内の研修にて定期的に行っている。今年からADLも設置されました。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法定の研修を毎年実施している。	年2回の定期避難訓練は夜間も想定して行っています。ハザードマップで事業所の災害リスクの確認をしています。法人が作成したBCP（業務継続計画）があります。防災備蓄品納入リストで災害時の備蓄管理をしています。今年度AEDを導入しています。	賞味期限の確認を含んだ非常災害時備蓄品リストの整備も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊重・プライバシーの保護、人権など施設内研修において学び日々の支援で実施できるように努めている。	事業所の理念の最初に「尊厳」を掲げています。「認知症ケア」「高齢者の心身の特性」「接遇マナー」等の研修を通して人格の尊重などを学び言葉掛けに注意を払っています。職員間での利用者の連絡は部屋番号で行い、呼称は苗字に「さん」付けを励行しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションや声掛けを工夫し、入居者が意思表示しやすい環境整備に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者をよく観察し、一人ひとりその日の体調や気分に合わせて支援を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者個々人に合った声掛けや支援を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援	食事の際に入居者個々人の嗜好品を取り入れるなど工夫している。準備や食	食事に変化をもたらす目的で2社の配食業者の献立と食材を1ヶ月交代で利用し、	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	事、片付けに関してはコロナ渦や入居者様の状況に応じて出来ない事が増えた。	利用者は野菜切りや食器拭きなどで食事に関わっています。ホットケーキ作りなどの食事レクリエーションにも注力しています。利用者の嗜好にも配慮して行事食や利用者の希望の刺身丼なども提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取に関して、全員良好といえるが、水分摂取に関してはここ最近で進まない入居者が目立ってきた。様子観察を行い、個別ケアの時間にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自力でのケアを促し、日々対応をしている。訪問歯科の専門ケアも隔週で受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	数人の方がADLが変わってきた為、リハビリパンツへの失禁が増えて来ている為モニタリング中。半数の方に関しては布パンツの方と完全にテープ止めオムツで定期交換を行っている。	排泄パターンを把握し、必要な人には定時誘導をしています。夜間はポータブルトイレを使用する人や睡眠を優先しておむつを使用する人など、個々の状況に応じた支援をしています。リハビリパンツから布パンツ使用になった人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	内服薬に頼らずにヨーグルトなど乳酸菌や運動を可能な限り促して生活をしているが、やはり3日に1回は薬物療法が必要な入居者もいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	同性介助を基本に対応している。コミュニケーション能力が高いスタッフとそうでないスタッフがいるため、すべての入浴時に楽しんでもらえているかは不明だが、極力、最低週2回の入浴を楽しめる様に努めている。	1階に機械浴があり、同性介助を基本に利用者は概ね週2回入浴しています。入浴を好まない人には声掛けに工夫をして促しています。入浴を楽しみにして待っている人もおり、職員と利用者が1対1になれる大切なコミュニケーションの場になるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	席で傾眠をしている時は臥床し安んではもらえるように促している。夜間は若干名昼夜逆転しているからもあるためモニタリング中。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情は配布されているが、現実問題としてすべてをの効能を把握してはいない。最近、錠剤を飲めなくなってしまいスムーズに飲めない為、嘱託医や薬剤師と今後対応を検討していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	認知症対応型共同生活介護としては要介護度の平均は高くなかなか役割を持ってもらう事が難しいが、嗜好品や回想を通して、少しずつ平和な時間が取れるようにしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	コロナ渦になってから約2年と数か月、散歩に行くという機会も減ってきてしまっている。加賀施設長は近くのコンビニなどは利用も可能だったが、佐藤施設長は慎重なので完全にスタッフのみでの買い物代行している。	新型コロナウイルス感染状況を見極めて桜や紫陽花見物に出かけています。感染拡大後は事業所建物の周囲の散歩や、外気浴などを行っています。曜日を固定し体操や歌などを行う「レクリエーション日程表」を活用し、車いすを使用している人も同様に気分転換できるように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	上記に記入するように買い物に行くこともないので、事務所で預かり、必要時に事務的に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から電話は可能な限りご本人に繋いでいる。また、本人からの要望に応じて、ご家族への連絡を支援している。現在、手紙のやり取りを行っている方はいない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間については消毒、清掃で清潔を心がけています。室内の温度・湿度も日々チェックを行っています。フロアには入居者の方々と作成した季節の飾りを掲示しています。	冬場でも、コロナ感染症対策により換気のため窓を開放しています。寒くならないよう、空調設備に加え電気ストーブを導入して温・湿度管理をしています。利用頻度の低いソファを移動して動線を確認し、車いす利用者も安心して居心地良く過ごせるようにしています。視覚にうったえられるよう、ユニット内の飾りつけにも工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の方々の個性や性格を注意深く観察し、席の配置をしています。コロナ渦という事もあり食席にはパーティションを設置しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人と一緒に清掃や片付けを行うように心がけている。好みのカレンダーやポスターなどの掲示も行っています。	居室内の洗面台やクローゼット、エアコン、照明器具は備え付となっています。介護ベッドは必要に応じて事業所が提供しています。利用者は防災カーテン、テレビ、イス、ベッド、鏡台、写真などを持ち込み、利用者それぞれが居心地よく過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	入居者の方々のADLに沿って家事等を一緒にを行っています。一人ひとりの能力		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	相対的支援体制を見極め、必要にお応じた支援を心がけている。		

事業所名	アクア淵野辺グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の理念は共有出来ていて、意識しながら働けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍のため出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設長記入のため、1階のものと共通以下は「1階のものと共通」とする。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1階のものと共通		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	1階のものと共通		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	施設研修や定期的な会議にて正しく実施出来る様に取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設研修や日頃のケアの中で気になった行為等は声を掛け合える環境にある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	1階のものと共通		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	1階のものと共通		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	1階のものと共通		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設長とは話しやすく、何かあれば、その都度相談が出来ている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1度、面接を行い、聞き取りを行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人で行っている研修にその職員が適しているかを見極めて派遣している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	1階のものと共通		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	介護計画書を作成し、本人に合ったサービスが提供できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	介護計画書の家族の希望欄や日々の電話などでの要望を反映できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、家族と話し合い、何か必要かを見極めサービスに反映出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来る所は、職員は見守るのみ。出来ない所のみ介助するように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族からの要望を聞き、その要望に沿うサービスを提供できるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍のため出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	トラブル等が起きないように必要に応じて対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者様それぞれに合ったケアを継続して行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	困っていることにはきちんを傾聴し、安心して頂けるよう声掛けをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今まで行っていた仕事内容を生活に生かし、利用者様それぞれに合った取り組みをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一緒に家事やレクリエーションを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人にあったケアが出来る様に話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	どんな小さい事でも、記録に残して、職員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	火によって対応の仕方が変わってくるので、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	1階のものと共通		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診があり、利用者の状態により適切な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	一週間に一度訪問看護師がきて、対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人・家族と話し合いを行い、チームケアが行えるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修の実施や今年からAEDが設置された。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	研修を通して、有事の際の動きを確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人ひとりに合った対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	実施出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	実施出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者全員には出来ていない。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	実施できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	8時、10時、12時、15時、18時に200mlづつの水分補給を促している。摂取が進まない時は都度、声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事後、自力でできる様方は自力で。介助が必要な方いは介助を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	介助が必要な方には時間を決めて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その人に合った運動を行っている。排便が無い日は腹部マッサージ等を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴を実施。曜日を決めて行っている。一人ひとりの希望には答えられていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	午前と午後に休息の時間を設けている。その他に、その人の体調や希望により自由に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬介助は諸君2人体制で行っている。薬が変わったり、用量の変更があった時にはモニタリングを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	調理やフロア内の飾りなど、一人ひとりのレベルに合わせ、職員と行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍のため出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実施できていない。事務所で管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在、毎月の写真を作成し、ご顔z九が日々の生活がわkるように行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に掃除や整頓を行うように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	実施できている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	実施できている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	実施できている。		

2022年度

事業所名 アジア野辺グループホーム  
 作成日：2023年6月23日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	賞味期限を含む非常災害時 備蓄品リストの作成	3ヶ月以内にリスト作成を行う。	備蓄品の整備後リストを作成 して職員に周知できるようにする。	3ヶ月 (現在完了)
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月